

## 市民目線のニーズ探究調査の中間報告がまとまりました。

～令和6年度・7年度の2か年で重層的な調査を実施し、市民ニーズを探究～

令和6年度は「横浜市中期計画 2022-2025」の中間振り返り（令和6年9月）において、市民インタビューを初めて実施しました。当該振り返りにおいても、今後も引き続き、市民目線での政策推進に向け、あらゆる機会を捉えて、多様な手段により市民意見を把握することとしています。

本調査は、今年度から計画最終年度となる7年度にかけて、新たな調査の積極導入や従来調査の転換を図りながら、市民の皆様暮らし・意識をはじめ、行政への満足度はもとより、不満足なところにも目をそらさず焦点をあて、重層的に実施しています。

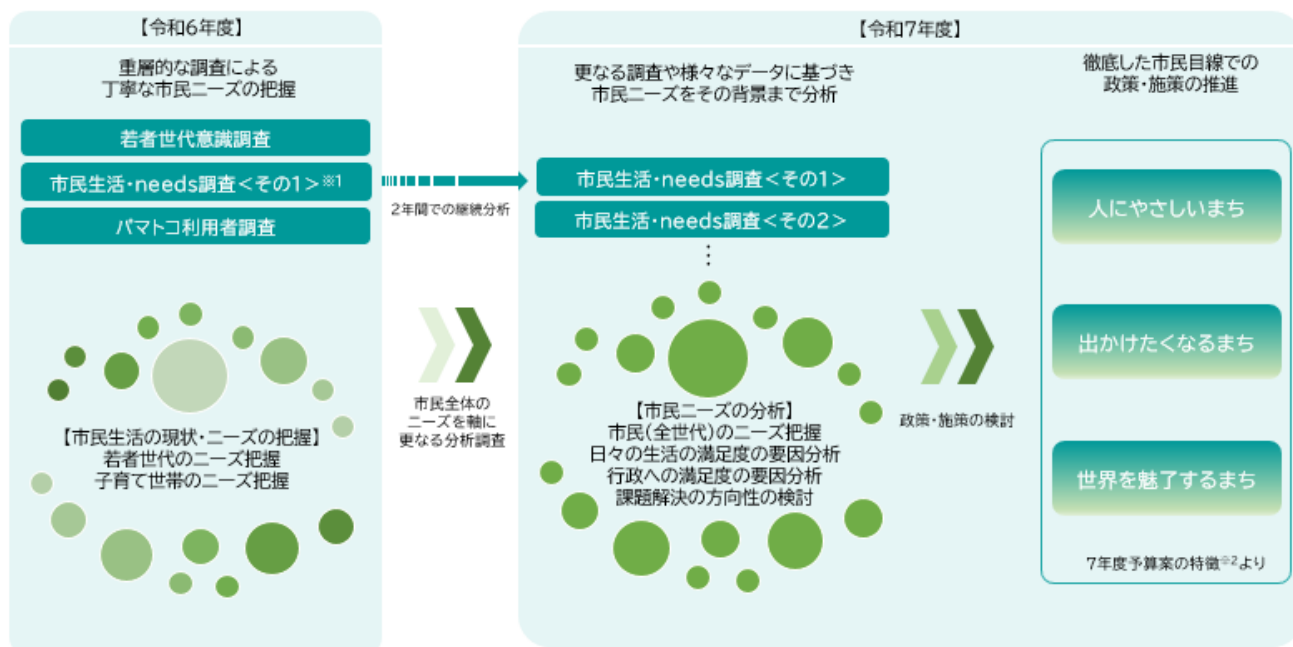
この度、中間報告がまとまりましたので、お知らせします。

### ■調査の概要

#### 1 「市民目線のニーズ探索調査」の全体像

「若者世代意識調査」「市民生活・needs 調査<その1>」「パマトコ利用調査」と複数の調査を重層的に実施しながら、市民生活の現状・ニーズの探究に取り組んでいます。

7年度に、更なる追加調査の実施や、調査結果の要因分析等を行い、課題解決に向けた方向性の検討を進めます。



※1 市民生活・needs調査<その1>は、「市民意識調査(令和6年度実施)」として実施

※2 7年度予算案公表URL  
<https://www.city.yokohama.lg.jp/city-info/zaisei/jokyo/yosan/r7/r7.files/R7yosan.pdf>



## 2 中間報告のポイント

本市として初めて若者世代に焦点をあてた調査を行い、より深いニーズの把握・分析に努めました。調査では、雇用創出や経済活性化の要望のほか、経済的な理由による将来への不安等の御意見がありました。令和7年度は、引き続き、不安の背景にある要因分析を進め（性別、ライフステージ別等）、市民目線での政策課題検討につなげます。

理想の生き方	<p>子育てと仕事との関係で、<u>理想の生き方</u>では、 「結婚し、子どもを持ち、仕事を続ける」が最多の<b>49.0%</b>、「結婚せず(パートナーを持たず)、仕事を続ける」が<b>9.2%</b></p> <p>子育てと仕事との関係で、<u>理想は理想として、実際になりそうな(既になっている)生き方</u>では、 「結婚し、子どもを持ち、仕事を続ける」が最多の<b>38.5%</b>、「結婚せず(パートナーを持たず)、仕事を続ける」が<b>29.8%</b></p> <p>➡ <u>理想と実際になりそうな姿にギャップが生じている</u>。インタビューでは、<u>経済的な不安、子育てへの不安</u>の声があった。</p>
結婚・子どものイメージ	<p><u>結婚のイメージ</u>では、 1位:楽しみや喜び(62.1%)、2位:精神的な安らぎ(60.1%)、3位:親や周囲の安心(35.6%)</p> <p><u>子ども・子育てのイメージ</u>では、 1位:楽しみや喜び(68.9%)、2位:<b>負担や苦勞(54.6%)</b>、3位:自身の成長(45.3%)</p> <p>➡ <u>子ども・子育ては「負担・苦勞」のイメージが大きい</u>。インタビューでは、<u>(子育てを)経験していないことからくる不安、SNSからネガティブな情報が入ってくる</u>との声があった。</p>
少子化対策で行政に望むこと	<p><u>結婚・妊娠・出産・子育ての希望を実現するために、行政に実施してほしい政策</u>では、 1位:出産や子育てに係る<u>直接的な経済支援</u>(54.5%) 2位:<u>雇用の安定</u>(賃金の上昇、非正規雇用と正規雇用における給与の差の縮小)(49.4%) 3位:<u>教育の無償化</u>(42.9%)</p> <p>➡ 【出産や子育てに係る経済的な負担を軽減し、若者が将来の展望が描ける状況が望まれている。インタビューでは、<u>子育て期間の経済的不安</u>の声があった。</p>

### お問合せ先

政策経営局経営戦略課長 遠藤 春香 Tel 045-671-3912



**GREEN×EXPO 2027**  
YOKOHAMA JAPAN

2027年国際園芸博覧会 2027年3月～9月 横浜・上瀬谷

